

RCJ 中部ブロックイベント 2019

実施報告書



RCJ 中部ブロックイベント 2019 実行委員会

目次

1. 大会概要	1
2. 参加者リスト	3
3. 当日のタイムスケジュール	9
4. 会計報告	10
5. プログラム実施報告・評価反省	11
5-1. 受付	11
5-2. オリエンテーション	12
5-3. 開閉会式	13
5-4. アイスブレイク	14
5-5. 技能大会	17
5-5-1. コンパス 20°ゲーム	19
5-5-2. 片手ロープワーク	21
5-5-3. キムスゲーム	23
5-5-4. 測量ゲーム	24
5-6. BBQ	26
5-7. 交流会	28
5-8. 活動報告会	29
6. 評価反省（プログラム以外）	33
6-1. 目的に対する評価反省	33
6-2. 実行委員会	34
6-3. 全体スケジュール	36
6-4. 参加申込	38
6-5. 参加者との連絡	39
6-6. 金沢からの参加者輸送について	39

6-7.	タイムスケジュール計画と結果	40
6-8.	ブロック・県代表との連携	43
6-9.	安全救護	43
6-10.	会計	43
6-11.	備品	44
6-12.	広報	44
7.	参加者事後アンケート結果	47
8.	実行委員の感想	54

1. 大会概要

開催の趣旨：

これまで中部ブロックでは、ブロック全体での交流が少なく、特に日本海側と太平洋側での交流がなかった。それぞれの地域のスカウト活動について情報共有・交流をすることにより、中部ブロックの活性化のきっかけとなることを狙って、昨年度の RCJ 中部ブロックにて初のブロックイベント開催の運びとなった。

目的：

- ①ブロック内での交流を通して、ブロックとしての連帯感を高め活動の活性化を図る。
- ②参加者のローバーリングに対する理解を深める。

テーマ：

新しい時代の幕開けに伴うブロック内の融和 -Creating a better Block-

期間：

2019 年(令和元年)8 月 31 日(土)～9 月 1 日(日) (1泊2日舎営)

会場：

石川県金沢市キゴ山ふれあい研修センター 青少年交流棟

参加費：

3000 円

参加申込方法：

Google フォームサービスを用いた「参加申込書作成フォーム」に必要事項を入力すると、PDF 形式の参加申込書が自動生成され、参加者の登録した e-mail アドレスに届く。参加希望者は参加申込書をプリントアウトし、健康調査票とともに所属団・県連盟の承認を経て、愛知連盟に送付する。

参加者：

61名(含実行委員9名)

イベントロゴマーク：

梅の花はイベントのテーマの要素ともなっている「令和」からインスピレーションを受けました。また、花の数はブロック内の県の数であり、咲いている様子はイベントによって活動がさらに活性化するようにという願いを込めて作られた。



イベントロゴマーク

記念品：

本イベントのロゴステッカーを記念品として参加者に配布した。



記念ステッカー

2. 参加者リスト

<実行委員>

担当	氏名	所属県連盟	所属団	備考
実行委員長	新田 寛和	石川	野々市第1団	県代表
副実行委員長(プログラム班班長)、総務班(会計)	玉井 鈴野	愛知	北名古屋第2団	前年度県代表
副実行委員長(総務班班長)	西山 あかり	静岡	沼津第19団	
プログラム	佐藤 優真	愛知	春日井第2団	
プログラム	山本 悠平	富山	高岡第9団	
プログラム	波切 はるか	静岡	浜松第24団	
プログラム	増田 いぶき	静岡	浜松第14団	
総務(安全救護)	金子 空	長野	立科第1団	県代表
総務(食事)	太田 和輝	岐阜	岐阜第1団	前年度県代表
総務(広報) ※当日不参加	柴田 裕介	三重	亀山第4団	県代表

<参加者>

No.	氏名	所属県連盟	所属団	備考
1	細貝 綾香	新潟	新潟第7団	2日目のみ参加
2	年永 ひなた	新潟	新潟第19団	県代表
3	大杉 雪乃	新潟	新潟第19団	
4	星山 亮	富山	魚津第2団	
5	鍋本 知江	富山	小矢部第3団	県代表
6	松波 拓真	富山	上市第1団	
7	山本 美空	富山	高岡第9団	
8	福島 翔太	富山	高岡第21団	
9	岩川 栞	富山	砺波第1団	
10	島林 貴	富山	富山第10団	
11	常本 泰平	富山	南砺第3団	
12	遠渡 佑輝	富山	滑川第1団	
13	高山 蒔乃	富山	滑川第1団	

No.	氏名	所属県連盟	所属団	備考
14	小橋 樹	石川	加賀第 3 団	
15	廣瀬 龍晴	石川	加賀第 3 団	
16	中口 陽介	石川	加賀第 3 団	
17	座主 遼太	石川	金沢第 6 団	
18	山下 裕司	石川	金沢第 11 団	
19	垣内 皐良	石川	野々市第 1 団	
20	山浦 孝介	長野	立科第 1 団	
21	松野 志紀	岐阜	岐阜第 11 団	
22	酒井 美於	岐阜	岐阜第 16 団	
23	奥村 理央	岐阜	岐阜第 25 団	
24	赤池 祥真	岐阜	多治見第 1 団	県代表
25	加藤 涼介	岐阜	多治見第 1 団	
26	富井 裕貴	岐阜	多治見第 1 団	
27	藤島 沙公良	静岡	富士第 8 団	県代表
28	外山 航	静岡	富士第 9 団	
29	和田 葉瑠香	静岡	富士第 9 団	
30	宮地 飛鳥	静岡	富士第 10 団	
31	中野 明香	静岡	焼津第 1 団	当日不参加
32	中久保 蓮太	愛知	あま第 3 団	
33	佐藤 秀仁	愛知	一宮第 5 団	
34	杉山 涼香	愛知	岡崎第 3 団	
35	奈倉 千晴	愛知	岡崎第 8 団	
36	中村 稔	愛知	江南第 1 団	
37	酒向 真琉	愛知	江南第 3 団	
38	中神 大輔	愛知	春日井第 5 団	1 日目のみ参加
39	佐伯 駿	愛知	小牧第 1 団	
40	中越 祐希	愛知	瀬戸第 6 団	
41	梶谷 光平	愛知	長久手第 1 団	
42	佐野 佑樹	愛知	名古屋第 12 団	
43	大庭 未来	愛知	名古屋第 12 団	
44	松村 康生	愛知	名古屋第 58 団	

No.	氏名	所属県連盟	所属団	備考
45	川畑 京蔵	愛知	名古屋第 87 団	
46	加藤 大季	愛知	名古屋第 87 団	
47	加納 正和	愛知	名古屋第 87 団	
48	池田 章浩	愛知	名古屋第 87 団	RCJ 議長
49	原 瑛	愛知	名古屋第 91 団	県/ブロック代表
50	柴山 美光	愛知	名古屋第 109 団	
51	川俣 明日香	愛知	半田第 7 団	
52	四至本 鈴香	埼玉	川口第 1 団	
53	小田嶋 純平	埼玉	越谷第 1 団	

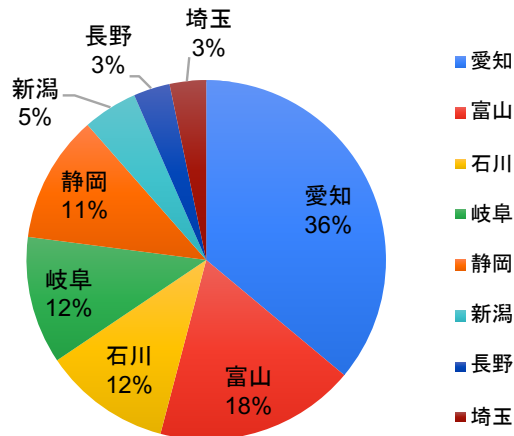
<県連盟別参加者数>

県連盟	参加人数	県連盟	参加人数
石川	6	岐阜	6
新潟	3	三重	0
富山	10	静岡	5(含欠席 1 名)
福井	0	愛知	20
長野	1	埼玉	2

参加者：53 名（含欠席 1 名）

実行委員：10 名（含欠席 1 名）

当日参加者：計 61 名（含実行委員 9 名）



当日参加者 61 名の参加県連盟別割合

<参加者詳細(活動班別)>

A 班 (班名：エイ)

参加者 No.	氏名	性別	所属県連 盟	所属団	生活班
5	鍋本 知江	女	富山	小矢部第 3 団	308
14	小橋 樹	男	石川	加賀第 3 団	303
28	外山 航	男	静岡	富士第 9 団	307
33	佐藤 秀仁	男	愛知	一宮第 5 団	305
35	奈倉 千晴	女	愛知	岡崎第 8 団	310
46	加藤 大季	男	愛知	名古屋第 87 団	304
53	小田嶋 純平	男	埼玉	越谷第 1 団	303
実行委員	太田 和輝	男	岐阜	岐阜第 1 団	302

B 班 (班名：Barbarian)

参加者 No.	氏名	性別	所属県連 盟	所属団	生活班
10	島林 貴	男	富山	富山第 10 団	304
13	高山 蒔乃	女	富山	滑川第 1 団	309
18	山下 裕司	男	石川	金沢第 11 団	307
21	松野 志紀	男	岐阜	岐阜第 11 団	304
34	杉山 涼香	女	愛知	岡崎第 3 団	309
37	酒向 真琉	男	愛知	江南第 3 団	306
49	原 瑛	男	愛知	名古屋第 91 団	302
実行委員	増田 いぶき	女	静岡	浜松第 14 団	308

C 班 (班名：ちんぱんじー)

参加者 No.	氏名	性別	所属県連 盟	所属団	生活班
3	大杉 雪乃	女	新潟	新潟第 19 団	310
4	星山 亮	男	富山	魚津第 2 団	303
6	松波 拓真	男	富山	上市第 1 団	305
27	藤島 沙公良	女	静岡	富士第 8 団	308

36	中村 稔	男	愛知	江南第1団	307
42	佐野 佑樹	男	愛知	名古屋第12団	305
実行委員	佐藤 優真	男	愛知	春日井第2団	302

D班 (班名：ドレミ)

参加者 No.	氏名	性別	所属県連盟	所属団	生活班
9	岩川 葉	女	富山	砺波第1団	309
19	垣内 皐良	男	石川	野々市第1団	306
24	赤池 祥真	男	岐阜	多治見第1団	302
30	宮地 飛鳥	男	静岡	富士第10団	305
47	加納 正和	男	愛知	名古屋第87団	304
50	柴山 美光	女	愛知	名古屋第109団	310
実行委員	山本 悠平	男	富山	高岡第9団	302

E班 (班名：エゾシカ)

参加者 No.	氏名	性別	所属県連盟	所属団	生活班
2	年永 ひなた	女	新潟	新潟第19団	308
11	常本 泰平	男	富山	南砺第3団	303
16	中口 陽介	男	石川	加賀第3団	306
25	加藤 涼介	男	岐阜	多治見第1団	307
38	中神 大輔	男	愛知	春日井第5団	305
43	大庭 未来	女	愛知	名古屋第12団	310
45	川畑 京蔵	男	愛知	名古屋第87団	305
実行委員	西山 あかり	女	静岡	沼津第19団	308

F班 (班名：フェアリーペンギン)

参加者 No.	氏名	性別	所属県連盟	所属団	生活班
1	細貝 綾香	女	新潟	新潟第7団	308
8	福島 翔太	男	富山	高岡第21団	304

23	奥村 理央	男	岐阜	岐阜第 25 団	306
29	和田 葉瑠香	女	静岡	富士第 9 団	310
39	佐伯 駿	男	愛知	小牧第 1 団	304
44	松村 康生	男	愛知	名古屋第 58 団	307
51	川俣 明日香	女	愛知	半田第 7 団	309
実行委員	新田 寛和	男	石川	野々市第 1 団	302

G 班 (班名：岳)

参加者 No.	氏名	性別	所属県連 盟	所属団	生活班
12	遠渡 佑輝	男	富山	滑川第 1 団	304
15	廣瀬 龍晴	男	石川	加賀第 3 団	305
20	山浦 孝介	男	長野	立科第 1 団	306
22	酒井 美於	女	岐阜	岐阜第 16 団	309
40	中越 祐希	女	愛知	瀬戸第 6 団	310
48	池田 章浩	男	愛知	名古屋第 87 団	303
実行委員	波切 はるか	女	静岡	浜松第 24 団	308

H 班 (班名：Harm)

参加者 No.	氏名	性別	所属県連 盟	所属団	生活班
7	山本 美空	女	富山	高岡第 9 団	310
17	座主 遼太	男	石川	金沢第 6 団	303
26	富井 裕貴	男	岐阜	多治見第 1 団	305
31	中野 明香	女	静岡	焼津第 1 団	309
32	中久保 蓮太	男	愛知	あま第 3 団	306
41	梶谷 光平	男	愛知	長久手第 1 団	303
52	四至本 鈴香	女	埼玉	川口第 1 団	309
実行委員	金子 空	男	長野	立科第 1 団	302
実行委員	玉井 鈴野	女	愛知	北名古屋第 2 団	308

3. 当日のタイムスケジュール

日付	時刻	内容	日付	時刻	内容
8/31	9:00	実行委員集合、準備	9/1	6:30	起床・清掃
	11:30	金沢駅送迎		7:30	朝食
	12:20	受付開始		9:00	活動報告会
	13:10	開会式		11:30	閉会式
	13:30	オリエンテーション		12:00	解散
	14:00	休憩			
	14:20	アイスブレイク			
	14:45	休憩			
	15:00	技能大会			
	18:00	BBQ			
	19:30	後片付け、入浴			
	20:00	交流会			
	22:00	消灯			

4. 会計報告

【収入】

摘要	単価	個数	金額
1. 参加費			
ローバースカウト	¥3,000	61	¥183,000
指導者(見学費)	¥1,000	5	¥5,000
合計			¥188,000

【支出】

摘要	単価	個数	金額
1. 宿泊料			
宿泊代	¥300	59	¥17,700
宿泊税	¥200	59	¥11,800
シーツ代	¥240	59	¥14,160
2. 食事代			
夕食			¥56,253
朝食	¥411	59	¥24,249
3. プログラム費			
アイスブレイク			¥314
スカウト技能大会			¥1,520
BBQ 備品			¥10,445
意見交換会			¥4,500
交流会			¥2,598
総務備品			¥2,319
4. 実行委員会費用			
下見交通費			¥17,760
前泊補助費	¥500	9	¥4,500
前泊入り食費	¥800	9	¥7,200
5. その他			
記念品(ステッカー)			¥6,815
消費税			¥4,889
合計			¥187,022
収支			¥978

※余剰金(978 円)は日本赤十字社を通して台風 19 号の被災者に対し募金した。

5. プログラム実施報告・評価反省

5-1. 受付

担当：西山

<事前準備>

会場設置と受付名簿・名札の準備

<実施内容>

時間：12：30～13：00

研修集会室にて長テーブルに実行委員3名が座り、名前と参加費の徴収、及び喫煙の有無・体調の確認を行なった。名札と記念品を渡し、名札ケースに入れること・班名を決めること、諸注意事項の連絡をそれぞれが行った。駐車場での車の誘導や玄関から研修集会室までの案内を一部の参加者に手伝ってもらった。



受付時に配布した名札
県連盟、活動班、生活班が記載されている。カードケースは参加者に持参してもらい、無ければ実行委員から貸し出した。

<評価反省>

参加のしおりを出した段階では決まっていなかったことも多く、受付時の詳細について記載していなかった。そのため、受付場所へ誘導するために人員が必要になったり、受付時に伝えることが多くなり、受付が混みあってしまったなどの反省点がある。

また、全ての参加者に対して喫煙の有無の確認を行ってしまった。未成年のスカウトに対しては行わないなどの配慮が必要であった。

細かな反省点はあるが、大きな問題も起きず完了できた。

5-2. オリエンテーション

担当：西山

<事前準備>

オリエンテーションでの連絡事項の確認

<実施内容>

時間：13：20～13：55

形式：施設の方からのオリエンテーション 30 分・実行委員からのオリエンテーション 5 分

オリエンテーション内容：施設使用に関する諸注意、タイムスケジュール変更の連絡、水分補給に関する案内、喫煙について等

<評価反省>

当初の予定では施設の方からのオリエンテーション 10 分間で、その後実行委員からのオリエンテーションを行い、オリエンテーション終了後に着替えと水分補給用のお茶を配布する予定だった。しかし、施設の方からのオリエンテーションが 30 分間と大幅に伸びてしまったり、想定以上に体育館内の気温が高いという事態が発生した。そのために予定を変更して施設の方からのオリエンテーション後に着替えとお茶の配布を行い、実行委員からのオリエンテーションを実施することとした。時間配分をぎりぎりに設定していたことや、気温が上昇し着替えやお茶の配布がオリエンテーション終了前に必要になると想定していなかったことが反省点である。今後は、安全救護の観点からも着替えやお茶の配布は早めに行い、時間設定にも余裕を持っておくべきだと感じる。

実行委員のオリエンテーションでは、時間が伸びていたため最低限の必要事項のみを伝えることとした。



5-3. 開閉会式

担当：佐藤、西山

<事前準備>

必要備品（国旗、マイク、簡易タープ等）の用意

<実施内容>

開会式 13:00～13:10

国旗儀礼、歌、実行委員長の言葉

閉会式 11:30～12:00

歌、石川県連盟コミッショナーの言葉、実行委員長の言葉、国旗儀礼
(雨天時は体育館にて行う予定だった)

<評価反省>

セレモニー時における実行委員の位置を当日に確認したりとバタバタしてしまった。細かなやり方は地域差が出るため、重要な部分だけでも事前の実行委員会等で共通認識を持つべきだった。「連絡事項から解散への流れ」は開会式でうまくいかなかった。指導者の方にご指摘いただいたおかげで閉会式ではスムーズに行えた。

参加者の人数が多く広いスペースが必要だったため、ベンチなど動かせるものがあれば移動し、できる限りのスペースを用意しておくともスムーズに進行できる。



5-4. アイスブレイク

担当：波切

目的：各県のご当地ネタを用いたゲームを通して参加者間の交流を促す

ゲーム名：走って合わせて中部特色ゲーム！

<事前準備>

県ごとの特色調べ

準備品：県名、お題のカード作成

お題：お土産、郷土料理、ランドマーク、ゆるキャラ、特産品、方言

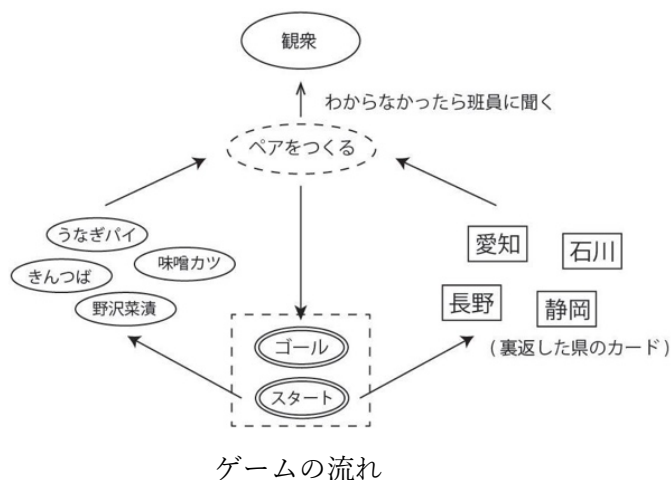
※カードはクリアファイルを加工して首下げできるようにした。お題のカード内には出題順に写真がセットされており、一番表の写真を引き抜けば次のお題の写真が現れるようにした。

<実施内容>

時間：14:20～14:45

ゲームの流れ

- ①1 ゲームにつき参加者は各班から2名とする。スタート地点からそれぞれ県のカードとお題のカードを取りに走る。
- ②それぞれ裏返してあるカードを1人一枚拾い、首からかけ（持って）、ペアを作る場所まで走る。その場所で愛知-味噌カツ・長野-信州そば、のようにお題と県のペアを作る。
- ③ペアの相手がわからなければ、班員に相談してもよい。
- ④ペアができたら、2人組のままゴールまで走る。
- ⑤ゴールしたペアから、全てのペアがゴールするまでふたりで自己紹介をする。
(県名カードの裏に自己紹介のテーマが書いてあるのでそれに沿って話す。「ボーイスカウトを始めた理由」「最近ハマっていること」など)
- ⑥ゴールが一番最後だったペアは、みんなの前で自己紹介をする。



お題と県名のカード



ゲーム実施の様子

<評価反省>

担当者のオリジナルゲームであり、前例がないため不安要素はあったが当日はかなり盛り上がり、イベントの始まりにふさわしい一体感を生むものとなった。班ごとの活動が主となる2日間の中で、イベント参加者全体で交流する機会を設けることは大きな意義を持ったように思う。

しかし、参加者からは班活動の始まりの意味で、反対に班での仲を深めるゲームの方が良かったのではないかという意見もあった。ゲームを選択するとき、参加者がほぼ初対面であること、大規模イベントの初回のゲームであること、それ以前でしっかりと自己紹介の場が設けられていなかったこと、今後2日間において班活動が重視されることなどの要素をもう少し慎重に見極めて、その目的が達成できるゲーム選びをするべきだったと思う。

当日の反省としては、ゲームの参加者(班から出た2名)とそれ以外の人が分離してしまったことがある。体育館が広く、当日のシミュレーションも十分でなかったため物理的な空間ができてしまったことが原因と考えられる。

また、先にゴールしたペアが自己紹介をする流れで県名カードの裏に書いておいた自己紹介のテーマは大いに役立った。話を始めやすかった、盛り上がったという感想をもらった。

加えて、スケジュールがずれてゲーム全体の時間が短くなったが、五分程度のゲームを何回も繰り返す形にしていたおかげで即時に対応ができた点はとても評価できると思う。

5-5. 技能大会

担当：山本、増田

目的：グループ対抗でのスカウト技能を用いたゲームを通して参加者間の親睦を深める。

<事前準備>

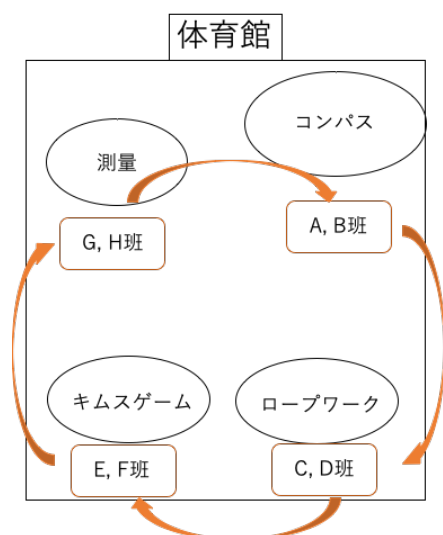
各ゲームの企画や計画及び準備、全体の形式などを決めた。

<実施内容>

時間：15:00～17:30

体育館にて、4つのゲーム(コンパス、測量、ロープワーク、キムス)を班対抗の競技ゲームとして行った。それぞれのゲームブースを用意し、参加者は2班ずつ各ゲームをローテーションする形で全ゲームを行った。ゲーム説明等も含め1ゲームは20分に設定し、ローテーションは一斉に行った。全ゲーム終了後、全体で猛獣狩りを行い、表彰式を行った。

ゲームごとに集計し、その結果を表彰式で発表した。各ゲームの優秀班には景品としてデザートを渡した。



ゲームローテーション模式図

2班一組でゲームをローテーションする



技能大会最後に行った
猛獣狩りの様子

<評価反省>

各班が班員の各々の技能を持ち寄りゲームを楽しんでこなしていく様子が見られた。班内の交流が活発に行われ、技能大会での目的は達成された。

しかしながら解答用紙を事前に印刷しておくべきであったことや、各ゲームの内容を理解したうえでブースの配置や時間配分をきめるなど反省点もあった。

全体に向けて技能大会についての説明のあとにブースの準備に時間を要したので説明の前に各ブースをある程度準備をしておくか、動かなくてもできる簡単なゲームを用意しておけばよかった。

また、表彰については、各チームの結果や答え合わせを行うとより充実した内容になったと思われる。

5-5-1. コンパス 20°ゲーム

担当：佐藤

<事前準備>

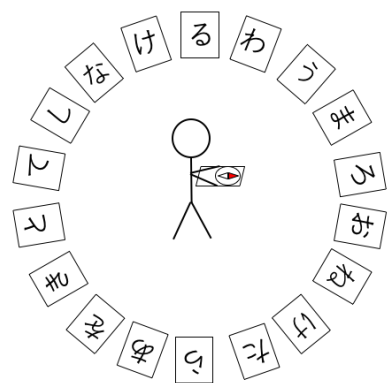
準備品；文字パネル、コンパス

当日準備：円上に、文字(数字)が書かれたパネルを 20°ごとに配置する。

<実施内容>

時間：15:00-16:50

班のうち 1 名が円上に並べられた文字パネルの中心に立ち、読み上げられた角度(20 の倍数)をコンパスで計りその場で方向を変え、正面に見えたパネルの文字を解答用紙に書く(文字の羅列に意味はない)。1 人 5 文字で行い、ゲームを行っていない参加者も、コンパスの使い方を教えるために輪の中に入って良いものとした。



ゲームイメージ



コンパス 20° ゲームの様子

<評価反省>

当日参加者から、「文字列に意味はないの？」と聞かれることが多く、答えが言葉になるようにした方が面白かったかもしれない。ゲームを始めるまで、コンパスで角度を計算して1文字読むのにどれだけ時間がかかるかが分からなかったため、事前に1人何文字読むかを決めきれなかった。当日、1回目のゲームの様子を見ながら回数を決めたが、前泊中に実行委員で試しにゲームを行ってみるなどして、所要時間の把握を行うべきだった。ゲーム中に中心の位置がわからなくなることも多かったので、養生テープ等で位置を決めて印をつけておくと良かった。

班(人)によって、必要な時間にかなり差ができた。コンパスの使い方を知らない人からするとかなり難易度の高いゲームになっており、時間も余分にかかった。その影響で技能のある人に待ち時間が生じるのは避けたいので、今回のように1人で2班を仕切るとなると難しいが、2人体制で「〇〇分で何文字読めるか」という形式のゲームにできると理想的だった。

内容的に、コンパスを使わなくてもできるゲームだった。その結果、コンパスを使ってゲームに参加した班と、角度を数えただけの班でかなり時間と難易度に差がついてしまった。コンパスの使い方を知っている必要があったため(ちゃんとゲームを行えば)、使い方を知らない人に知っている人が教えるなど、班で協力する良い機会になっていた。中には班全員で輪の中に入って教えあっていた班もあったので、アイスブレイクの効果は靦面だったと評価する。

5-5-2. 片手ロープワーク

担当：新田

<事前準備>

片手ずつで可能な結索の検討

結索の結果を記録するチェックリストの作成

準備品：ロープ、麵棒(角縛り、筋交い縛り用)、結果記録用チェックリスト

<実施内容>

時間：15:00-16:50

二人一組になり、指定した結びをお互い片手のみを用いて結索し、班全体で制限時間内(10分間)に結索できた数を競う。結索内容は八の字、ひきとけ結び、本結び、ひとえつぎ、ネジ結び、ちぢめ結び、こしかけ結び、テグス結び、バタフライノット、角縛り、筋交い結び、連続とめ結び、連続八の字結びの計13種とした。結索はペアごとのリレー形式で行い、結び終えたらその都度実行委員が確認した。ルール説明後にペア作りと作戦会議の時間を設けた。

<評価反省>

結索内容を初級スカウトレベルの簡単なものを中心としたため、片手ずつで行う難しさと面白さを感じてもらえる内容にできた。片手で結ぶという不自由さから、ペア内だけでなく班内でもコミュニケーションを促進することができたと評価する。2班同時で行なったため、結索のジャッジが前後してしまう場面があった。実行委員を2人体制することでより公平に進めることができたのではないかと考える。

ゲームの結果、どの班も顕著な差は見られず、特に上位は僅差だった。1位のみ景品を与える予定だったため、もし同率一位が出れば景品内容に変更を要する結果となった。今回は1班のみが一位となったが、結索難易度ごとに点数をつけるなど結果に差が出る工夫をしても良いかもしれない。



片手ロープワークゲームの様子

5-5-3. キムスゲーム

担当：波切

<事前準備>

準備品：キムスの品物、目隠し用シート、回答用紙

<実施内容>

時間：15:00～16:50

班ごとで行う。3分間で60個の品を覚え、その後4分間で班で一枚の解答を完成させる。正解した個数で点数をつけた。



キムスゲームの様子

<評価反省>

全参加者がゲームをよく知っていたため当日は円滑な運営が行えた。60個という数もローバースカウトには適切であったように思う。シミュレーションを行なっていなかったため書き出す時間は適切かどうかかわからず、その場で変更した旨もあったが問題も起きずにスムーズに進行した。しかし前もってシミュレーションを行うことの大切さを実感した。

技能大会では2班ずつのグループで各ゲームを回る形式であった。他のゲームと時間を合わせるため、キムスは1班ずつ行い、もう一つの班にはゲーム内容が見えない程度の距離を保って待機してもらっていた。そのときの待機の班が待ち時間を余す様子がうかがえた。待機時に行うちょっとしたアイスブレイクを用意しておけばより満足度の高いプログラムになったと考えられる。

事前準備段階での反省点としては、実行委員間でキムスの答えとなるものの準備の負担が偏ってしまったことがあげられる。他のプログラムとの兼ね合いで後回しになってしまい時間が限られてしまったことが原因なので、計画と準備を並行して行えたらよかったと思う。

5-5-4. 測量ゲーム

担当：増田

<事前準備>

測量する場所の決定及び測定結果の作成

<実施内容>

時間：15:00-16:50

形式：「廊下の距離」、「廊下の幅」、「足元の通気口の柵の幅」、「体育館の天井の高さ」の 4 つを測量する。

道具として、ロープ、手旗、コンパスを貸し出した。

<評価反省>

ロープと手旗を参加者に貸し出す予定だったが、どの実行委員から借りるかしっかりと決めておらず、手旗は2本借りることができたが、ロープは1本しか確保できなかった。その結果、片方の班に有利になってしまった。

結果発表では順位のみを発表となってしまったが、測定の答えが知りたいという声から多く挙がった。実行委員が予め調査していた答えを発表し、班内の交流に活かされればよかった。ゲームの制限時間を予め参加者に伝えていたが、時間内に終わることが出来なかった班が多かった。制限時間の直前に各班に呼びかけが必要であった。

参加者は工夫と協力、及び話し合いをしながらゲームを行っていた。スカウト間の親睦を深めるという技能大会の目的は達成できた。



測量ゲームの様子

5-6. BBQ

担当：太田

<事前準備>

食材等の予約、調理、会場設営

<実施内容>

時間：18:00～19:30

形式：各班ごとに分かれ、切り分け済みの食材を渡して BBQ を行った。火を扱える場所が決められていたため、各班の中心となる位置で飲料、調味料などの配布を行った。

<評価反省>

準備に関して、食材の量は十分だった。しかし、調味料が大幅に余るなどの事態が発生した。この原因は実際のスーパーで買い出ししたのではなく、ネットスーパーで予約したため、量の過不足がイメージし辛かったところにある。今後、同じような調達方法をとる場合は実際のスーパーで実物を見ながら予約する量を考えた方が良い。

当日は準備に時間がかかり、予定より 30 分遅れての開始となった。原因としては食材の切り分けと会場の設営を順番に行ったためである。人数が少なくとも、同時に準備を開始した方が良い。

BBQ は各班和やかな雰囲気が進み、参加者からも「班内での交流が深めることができた。」「楽しかった。」などの声が多く寄せられた。一方で、時間が遅れてしまったがために次の動きが不明確になってしまったり、最終の時間が分からず完食することができない班が出たりしてしまった。このことから、時間が変更された場合は情報の共有をすることを徹底しなければならないと感じた。

BBQ 全体を通して、交流を深めるという点でブロックイベントの目標を十分に達成できたと感じる。一方で、参加者からは「準備から片付けまで自分たちでやりたかった。」という意見が多かった。参加者もスカウトであることを十分に考慮する必要がある。



BBQの様子

5-7. 交流会

担当：佐藤

<事前準備>

ゲームの準備

<実施内容>

時間：20:00～22:00

活動班を4グループに分け、30分交代で1グループ（2班）が入浴、3グループが交流会に参加する形式で行った。計画段階では30分ごとの切り替えのタイミングでゲームを行う予定だったが、当日は最初にゲームを行い、お菓子と飲み物を提供した上で自由に歓談の時間とした。

<評価反省>

最初のゲームが言葉遊び系のゲームで、セレクトとしては良かった。ただし、開始直後の人が集まってくるタイミングが最も取りまとめるのが難しかった。人数的にゲームは始められない上に、場が温まっていないため自由に話させるのも厳しい状況だった。前のプログラムから交流会の参加者をまとめて引っ張ってきて、最初からある程度の人数で入ってスタートを切るなどの流れを組むと良かった。

場所は狭かったが、机にイスではなく畳に直接座って話せたおかげで話しやすい雰囲気になっており、盛り上がっていたのは良かった。



交流会の様子

5-8. 活動報告会

担当：佐藤

目的

- ・他県連盟に所属する RS の活動を知ること、参加者のローバーリングに対するより深い理解と今後の活動へ向けた新たな観点を培う。
- ・参加者の中部ブロックについての理解を深めるとともに、今後の中部ブロックの活性化を図るための「RS の声」を得られる機会を作る。

<事前準備>

発表者への手元資料、発表資料の作成依頼、回収
当日配布した手元資料の準備（印刷）

<実施内容>

時間：9:00～11:30

○第一部

本イベントに参加した各県連盟のスカウトから発表者を募り（基本的に発表は県代表が行い、ブロック代表や本イベントの実行委員を兼ねている場合はその県の他の RS が発表を行った）、所属県内での RS 活動報告を行ってもらった。

各県連盟の特色を伝えられる活動報告にするため、発表のテーマは実行委員側で指定した。また各県の活動報告とは別に、RCJ からも発表を行ってもらった。

参加者及び2日目に来ていただいた指導者の方々に配布する手元資料として、各発表者に A4 サイズで資料を作成してもらい、白黒印刷してまとめたものを当日配布した。

【発表テーマ】

県の活動：愛知、静岡、岐阜、富山

地区の活動：愛知

個人の活動：石川、長野

大学ローバースの活動：新潟

RCJ での活動

発表者1人につき発表4分、質疑応答3分の計7分で進めた。時間を超過した発表者も数名いたが、発表内容と全体の時間を考慮した上で、発表時間をオーバーしても止めること

はしなかった。質疑応答については、発表ごとに質問をする班を順番に当て、全ての発表において一人以上の質問者が出るようにした。

また各県の活動報告終了後、ブロック代表による中部ブロックについての発表を行った。内容は中部ブロック及び県代表の紹介等とした。



第一部：活動報告会

○第二部

第一部での各県の活動報告、中部ブロックについての発表を聞いた上で、今後の中部ブロックについての議論の時間とした。目的の『今後の中部ブロックの活性化を図るための「RSの声」』の記録として、配布した画用紙に各グループで話し合った内容を書いてもらった。また計画段階では第二部の最後に各班から2分間の発表をしてもらうようになっていたが、当日は時間がなかったため無しとした。



第二部：グループ談論

<評価反省>

発表者への、発表資料(スライド)と手元資料の作成依頼が遅かった。全ての資料が集まったのも当日ぎりぎりだったので、余裕を持って準備したい。配布資料はファイル容量が大き過ぎたのが原因で、コンビニで印刷できないというトラブルが発生した。前日までに必ず準備して、少なくともコピー用に1部は印刷して準備しておくべきであった。もしくは依頼時にファイルサイズの上限を決めるようにすればよかった。また、発表者のLINEのグループを予め作り、当日までに軽く打ち合わせを行えば当日の準備がスムーズに進められたと思われる。

第一部では、途中で息抜きのゲームを行ない、リフレッシュを試みた。しかしながらゲーム直後に休憩をとってしまい、息抜きのゲームとしての効果が発揮できなかった。ゲームは予定に入れておらずその場の判断で行ったもので、実行委員間での調整ができていなかったのが原因である。時間を見ながら休憩のタイミング等を指示する役(タイムキーパー)を1人決めておいて、その人からのみ指示を出すようにするべきだった。質疑応答の発表者を出す班を毎回当てるという形式は、参加者からは不適切との声が多かった。司会者が場つなぎでコメントや質問を行うか、参加者の中にいる実行委員から質問が出せると良かった。発表の内容に関しては、「他の県の活動や組織形態を知ることができて良かった」「他の県と一緒に活動してみたい」「自分の県の良さがわかった」等の前向きな意見が多く、参加者側からの評価は高かったと言える。

第二部の談論は、参加者から話し合う内容が不明確で議論を進めにくかったという意見があった。実行委員側としては、あえて自由に話題を設定できるようにしたつもりだったが、テーマを明確にした方が参加者としては話しやすかったかもしれない。また「中部ブロックの今後について」というテーマで話し合いを行ってもらったが、他の県のスカウトから直接意見を聞ける機会でもあったので、今後の自分たちの活動について話し合う方が有意義だったとも感じた。


RCJ 中部ブロックイベント 2019

活動報告



2019.8.31~9.1
金沢市キコ山ふれあい研修センター

RCJ 中部ブロックイベント 2019 実行委員会



01 参加者受付
02 開会式
03 各団体の活動
04 閉会式

岐阜ローバース (RoG)

平成 26 年 6 月 発足 構成員 68 名

活動体(会費ではなく、活動がメイン)
年 4 回の会費と年 4 回の活動がベース!!

【春季活動】
・年 4 回の活動が好評である
→活動が軌道に乗った
活動の具体内化
・加盟している団体に
参加したい人が多量

【冬季活動】
・年 4 回の活動が好評である
→活動が軌道に乗った
活動の具体内化
・加盟している団体に
参加したい人が多量

【今後】
・短期的な活動だけでなく中長期活動にも取り組む!!
・広く開かれたローバースへRS 活動の更なる活性化!!

YTS 紹介!

<ニュース ゲーム 静岡>

・活動内容: 新聞読者少年団
・活動時間: 毎月 1 回(土曜日 18:00~20:00)
・活動場所: 静岡県新聞協会(静岡市)
・活動対象: 小学生以上(中学生以上が中心)

2019年度活動報告
2019年度活動報告

石川県RS活動報告

石川県ではほとんどのRS隊は各隊の指導者として活動しています。今回は金沢地区ローバースの活動をご紹介します。

活動内容: 自然観察、登山、キャンプ、野外活動
活動時間: 毎月 1 回(土曜日 18:00~20:00)
活動場所: 石川県新聞協会(金沢市)

2019年度活動報告
2019年度活動報告

個人の活動について

長野県立科第一回 山浦 孝介

カブスカウト
母親が知り合いにやっていたボーイスカウトを自分のやりかたで参加したいという思いで、活動の自分には、ボーイスカウトにあまり興味がない、夏祭りのイベントや自分の興味がある活動に参加したいという思いがある。

ボーイスカウト
野外活動をやりたいという思いで入隊。野外活動をやりたいという思いで、実際の活動の大きさ、その時の先輩たちが積極的に教えてくれるボーイスカウト生活でとても楽しく活動しています。

ベンチヤースカウト
立科第一回は、毎年 1 月に V 賞以上を目標にしたママサリGP という行事に参加したい気持ちで入隊。自分たちの代は 1 つ上の世代がないという特殊な事情があったため、入隊から自分自身という一人のスカウトで 1 年ずつ成長を遂げた。自分たちで企画・運営することが多くなり非常に充実した活動を行なえて、これから先も自分の活動でボーイスカウトに関わってみたいと思う。

2019年度活動報告
2019年度活動報告

愛知ローバース会誌

会誌ローバース会誌
2019年 8 月 22 日発行、今年 22 号
発行所: 愛知県新聞協会(名古屋)

活動内容: 新聞読者少年団
活動時間: 毎月 1 回(土曜日 18:00~20:00)
活動場所: 愛知県新聞協会(名古屋)

2019年度活動報告
2019年度活動報告

愛知連盟 尾張西地区ローバース軌跡

総会・定例会
・総会は一年に 1 回
・定例会は一年に 4 回
・自分の意思表示ができる場

地区内の「やりたい」をかなえるのが地区ローバースの役割
仲間とならなうだってできる!!

アクティビティ・災害支援

新潟連盟

RCJ 中部ブロックイベント 2019 @ 石川

8 月 19 日開催ローバースの新潟連盟参加者は 43 名(男性 20 名、女性 23 名)が新潟県 19 市(新潟県新聞協会)が 20 名である。
・地域別に所属するスカウトは高学年より、関東圏へ進学する者が多いので、県連としてローバースの活動は活発ではなかった。

【詳細】
・ローバースの受け皿はでたので、地域別のローバースを如何に巻き込んでいくか。
・大学ローバースの認知度の向上。
・地域ローバースは自らの活動がメインになっている(補助的役割は中核で果たしている)。しかし、大学ローバースの社会との関わり(Community Involvement)に繋がっている。その繋がりを如何に深めていくか。

【最近の活動】
・国民文化祭イベントへ参加。
・児童養護施設に暮らす子供たちへのキャンプ企画。実施。(子どもゆめ基金事業)これは、新潟県 19 市の活動ではないが、スカウトメンバーはすべて加盟員(新潟 19 市)。
・新潟県三上市にある SnowPeak 本社とのコラボ事業の展開。
・新潟県 10 市青年会への参加。
・アウトドアチャレンジ協議会とのコラボ事業「野外カレッジ」の運営。

RCJ公式LINE@

あなたにもお知らせすべし! 3つの理由

✓ 直接あなたに通知が届くから、「見逃さない」「忘れない」

✓ リンク付きで配信されるから、詳細情報まで直通アクセス

✓ RSに関する情報配信だから、情報収集の効率がUP

ID: @rovingjapan

RCJ フォーラム

日時: 2019 年 10 月 12 日~2019 年 10 月 14 日
会場: 大阪府・大阪府立中央自然史博物館
申し込み: 9 月 13 日(金)まで事務局宛に

全国からローバース 1 千名以上が集まるという開催を機に開催されるチャンス。是非一度申し込んで、中部ブロックイベントの開催に貢献しよう!!
詳細については、お問い合わせください。お問い合わせ先はこちらです!!

申し込みが締め切られたら、早くも、早くも、早くも!!

申し込みはこちらから!!
<https://www.rcj.or.jp/forum/info/infoform2019.html>

活動報告会に参加者及び参列した指導者に配布した発表内容の資料
発表内容について A4 一枚にまとめてもらい、綴じて資料として配布した。

6. 評価反省（プログラム以外）

6-1. 目的に対する評価反省

目的：

- ① ブロック内での交流を通して、ブロックとしての連帯感を高め活動の活性化を図る。
- ② 参加者のローバーリングに対する理解を深める。

① について

中部ブロックとして初となるブロックイベントを開き、中部9県連盟のうち7県連盟の参加となった。活動班を所属県連盟や年齢を考慮して構成したことや、県ごとの特色を意識させたプログラムにより、県を超えた密接な交流を行うことができた。本イベントはブロックとしての連帯感を高めるきっかけにはなったと思うが、ブロック全体というよりは個人同士のつながりの方が目立ち、ブロック全体として視野を向けさせることが必要だと考える。

ブロック全体の活性化につなげるためにはブロックとして継続的なイベントの開催が効果的だと考える。次回は全県連盟が参加するイベントにしたい。今回実行委員が出ていない県連盟からの参加はなかったため、次回のイベントでは実行委員は全県連盟から出るべきである。

② について

背景の異なるスカウト同士の交流により、お互いのローバーリングへの理解を深める機会を提供できたと考える。内輪にとどまらず外に出ることで、お互いに視野が広がり、本活動を通して自らの可能性の広さを認識することに繋がった。

6-2. 実行委員会

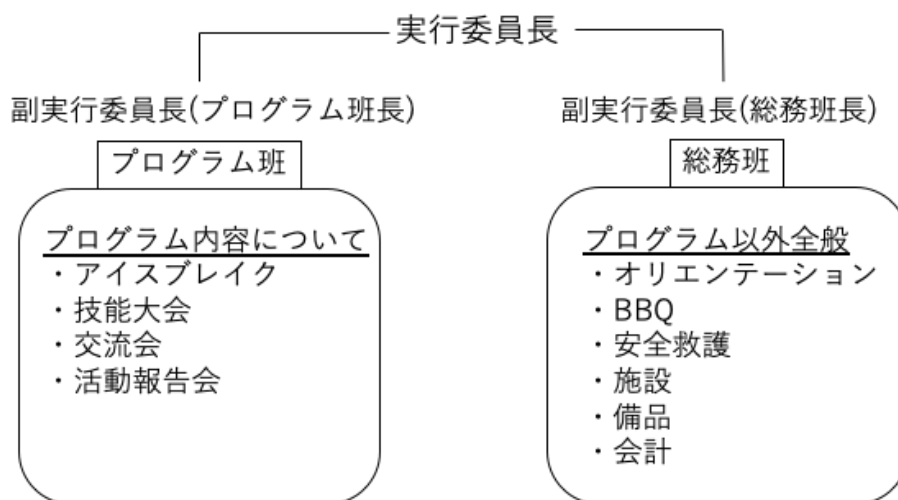
実行委員会の組織・決議までの流れ

実行委員会はプログラム班と総務班の2班で構成され、実行委員会の前に班会議を行い詳細について話し合い、実行委員会で承認するという形を採用した。基本的に各班会議には正・副実行委員長が参加し、全体の進行の把握に努めた。

実行委員会の決議は議事録として愛知連盟を通じて中部各県連盟に送付され、承認される流れとした。承認に時間を要するため、第1回実行委員会にてその後の実行委員会の開催日を決定した。実行委員会の始動が6月下旬だったため、実行委員会は2週間に一度のスパコンで開催した。

予め実行委員会の開催日を決定しておくことで、どの段階で何を決めなければいけないのかの具体的な準備のイメージができた。班会議を事前に行うことにより、実行委員会を効率的に進めるのに役に立ったと評価する。しかしながら短い準備期間によってほぼ毎週会議を行っていたため、実行委員の負担は大きかった。また、議論が加熱し毎回の会議時間が長引いてしまい、これもまた実行委員の負担になった。これについては班会議でもっと煮詰めた議論をすることや、会議の終了時間を決めておく、などの対応が考えられる。

当日までの実行委員会は全てLINE通話にて行い、データはGoogle driveを用いて共有した。リモートでのミーティングに特化した他のアプリ（SlackやZoomミーティング）を使用するとより会議が効率化できるかもしれない。



実行委員会組織図

現地の下見について

現地施設の下見を7月中旬及びイベント前日に行った。当日の実行委員がスムーズに動くためには、下見は必須だったと判断する。また、施設内の飲食や喫煙、部屋の利用時間についての下調べが甘く、開催直前になって慌てて対応する場面があった。この点も下見の時点で詳細に明らかにするべきであった。

会場での連絡手段について

会場は電波状況が悪いせいもあり、LINEでの連絡は繋がりにくかったため、実行委員同士の迅速な情報のやり取りが不便だった。また、BBQの準備に予定よりも時間がかかったため、技能大会の時間を延ばした。その際にも技能大会側とBBQ準備側とでうまく連携が取れず終了するタイミングが分からないという問題が発生した。電波状況が悪い立地ならば、トランシーバーを借りることを検討しても良い。

宿泊部屋の鍵の管理

参加者の宿泊部屋の鍵は実行委員が管理していたが、これは実行委員のリソースを非常に割く行為だったため、初めから参加者に鍵を預けておくべきである。

実行委員の目印

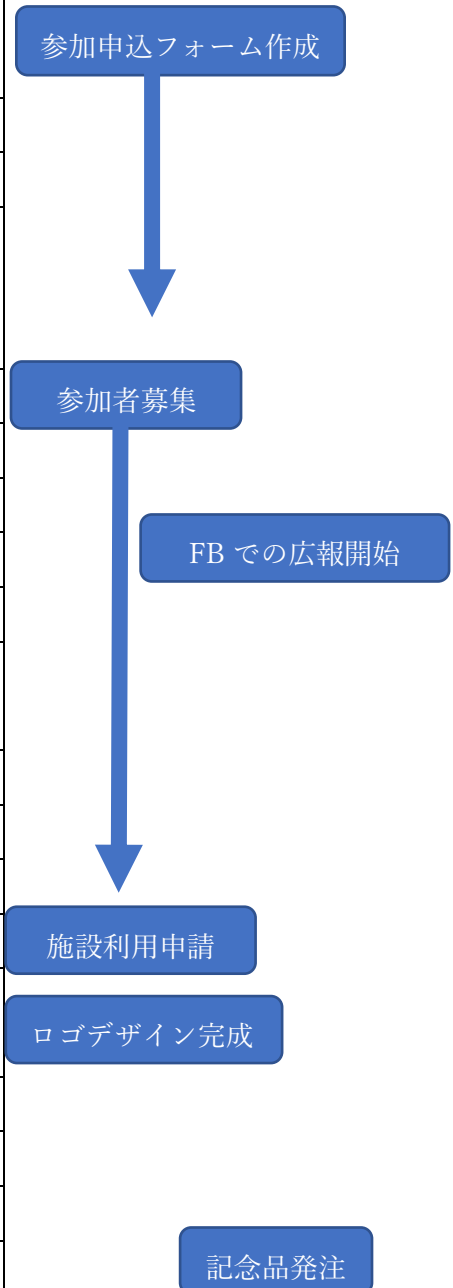
初対面同士が多い中で、参加者から一目でわかるように実行委員はバンダナを身につけるようにした。事後アンケートの結果から、バンダナをつけることで実行委員を簡単に判別でき、困ったことがあった際に声がかかりやすかった等の評価が得られた。

6-3. 全体スケジュール

準備期間が2ヶ月というのは相当無理があり、承認段階で1つでも見落とすと開催に必要な手続きが取れないという非常にシビアな状況であった。今回のプログラム内容は比較的シンプルだったため対処できたが、今後はより長い準備期間が必要である。

全体的なスケジュール結果

日程	会議等	内容	
6月	24日	第1回実行委員会	役割、目的、会議日程決め
	4日	プログラム班会議	
7月	6日	総務班会議	
	7日	第2回実行委員会	テーマ、参加募集要綱、参加申込、広報(RCJ 中部ブロックへのFB使用願い)
	13日		
	15日	現地下見	
	16日	総務班会議	
	18日		
	20日	プログラム班会議	
	21日	第3回実行委員会	施設利用申請書類、ブロック外からの参加
	22日		
	29日	総務班会議	
	30日		
31日	プログラム班会議		
8月	4日	第4回実行委員会	安全計画書、記念品(ロゴデザイン)、予算
	8日		
	10日		
	12日	プログラム班会議	
	16日		
	17日	総務班会議	



8 月	18日	第5回実行委員会	当日のタイムスケジュール、参加者輸送、参加のしおり
	23日		
	25日	第6回実行委員会	当日の動き、準備品
	27日		
	30日	前泊	プログラム準備、打ち合わせ
	31日	ブロックイベント 1日目	
9 月	1日	ブロックイベント 2日目(第7回実行委員会)	
	2日		
	7日	第8回実行委員会	評価反省
	9日		
	20日	プログラム班会議	評価反省
	21日	第9回実行委員会	評価反省
10 月	8日	第10回実行委員会	評価反省、報告書作成
11 月	29日	第11回実行委員会	報告書承認

参加のしおり配信

記念品到着

参加者事後アンケート



6-4. 参加申込

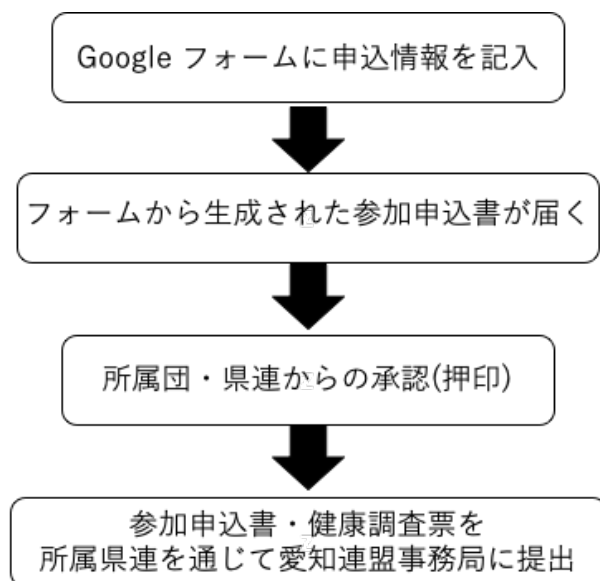
参加者は Google フォームに必要事項を回答すると必要事項が記入された申込書が送信され、それを団・県連盟の承認を受けて健康調査票とともに愛知連盟に提出することにより参加申込完了とした（7/30 愛知連盟事務局必着）。フォームからメール送信までの流れは Google Apps Script を用いた。

良かった点として、参加申し込み期間中から申し込み状況がわかることにより、全体の参加人数の予想が容易となり、プログラム計画に役立った。また、参加申込が増えて行く様子をリアルタイムで見ていくのは実行委員のモチベーションに繋がった。

改善点として、申し込み形式の周知が不十分で理解されない場合があったことが挙げられる。また、県外活動申請書の必要の有無が当日近くまで不明瞭だったため、予め各県連盟に確認することができればよかった。参加募集要項等にキャンセル方法を記載していなかったために参加辞退の際に連絡不備が起きた。参加辞退や問い合わせについてもフォローすべきである。

参加申し込み受付期間中に参加者情報の整理のため、フォームの回答が記載したスプレッドシートに手を加えたためにスクリプトが誤動作してメールが送信されないという問題が起きた。手打ちで対応したが、スクリプト関係のマニュアルを作り実行委員内で共有することで防ぐことができる。

参加申込フォームでの記入事項について、本イベントへの参加目的や期待していることなども記入項目とすることで参加者各自が課題や目的意識を持つことにより、より充実したイベントに繋がると考えられる。



参加申込までの流れ

RCJ中部ブロックイベント2019 参加申し込み書作成フォーム

***必須**

メールアドレス *

メールアドレス _____

加盟登録番号 *

半角数字でハイフンを入れずに入力してください。

回答を入力 _____

氏名 *

名字と名前の間に半角スペースを入れ、入力してください。

回答を入力 _____

フリガナ *

全角カタカナで名字と名前の間に半角スペースを入れ、入力してください。

RCJ中部ブロックイベント2019 参加申込書

フリガナ	スカウト テロウ		性別	男性	生年月日	年齢
名前	スカウト 太郎		性別	男性	2019/03/01	
所属県連盟	石川県連盟	所属団	test	役務	test	
加盟登録番号	1234567890					
住所	test					
連絡先	電話番号	000-1111-1111				
	メールアドレス	test@example				
職業		学年 (学生のみ)		団員の場合の運転者		
現在への予定交通手段						
これまでに経験したローバー活動						
その他特記事項						

上記の者を参加者として推薦いたします。

団の承認
 団委員長 _____ 印
 地区の承認
 地区コミッショナー _____ 印
 県連盟の承認
 令和 年 月 日 県連盟コミッショナー _____ 印

※令和元年7月30日迄に愛知県連盟事務局へお送りください。

Google フォームでの申込記入画面

生成された参加申込書

6-5. 参加者との連絡

参加者への連絡は基本的にはメールで、リマインドや当日の急な連絡のために LINE を利用した。実行委員会からのメール閲覧の促進ができたため、LINE グループは効果があった。

反省点としては参加のしおりを配信する段階(開催 1 週間前)で初めて参加者に対し実行委員会から連絡を行なった点である。参加者に対して参加決定通知を出すのを失念してしまったため、参加者は当日ギリギリまで参加決定されているかが不明の状態にさせてしまった。また、公共交通機関を利用する参加者のための金沢駅から施設への輸送についての連絡もより早い段階で行うべきであった。

6-6. 金沢からの参加者輸送について

公共交通機関にて来る参加者のために、石川県連盟の指導者の協力によって金沢駅から会場までの輸送を行なった。

<事前準備>

金沢駅からの輸送は実行委員会からの石川県連盟へ依頼した。予算の都合上バスをチャーターすることは不可能だったため、石川県連盟の協力が得られたことによる寄与は大きい。参加申込時点で移動手段を記入してもらっていたため、輸送を必要とする大まかな人数を予想した。しかしながら公共交通機関は用いるが輸送を必要としない参加者もいたため、参加者に対する輸送案内をより早い段階で行うことで正確な輸送人数の把握につながった。

<当日>

金沢駅の西口に 11 時半集合に設定した。初めて来る参加者のため、集合場所の写真をあげた方がより分かりやすかったのではないかと考える。予定時刻 10 分前にはほとんどの参加者は集合しており、問題なく輸送ができた。予め参加者が遅れてきた場合の対応も決めていたため、スムーズに動けた。

輸送を頼んだ石川県連盟のリーダーとの顔合わせという点で新田が赴いたが、実行委員長が現場を離れるのは良い判断では無かった。石川県連盟の実行委員を出すか、石川県連盟からの参加スカウトに予め頼めばよかった。

当日、もしくは前日に輸送者の増減があった。予め乗車予定人数に余裕を持っていたので対応できた。

6-7. タイムスケジュール計画と結果

タイムスケジュールの計画と結果を次項に示す。おおよそ、事前に作成したタイムスケジュール通りにプログラムを進行することができた。初日において、オリエンテーションに時間を要したのと、安全の観点から休憩を挟んだためにタイムスケジュールがずれた。しかし、時間調整が可能なアイスブレイクであったため問題なく対応できた。時間調節が可能なプログラムを間に挟んでおくと予定外にも対応できる。

実行委員はタイトなタイムスケジュールが予想されたため、前泊含む当日の詳細なタイムスケジュールを作成し、実行委員内で共有した。誰が、どの時間に何をしているのかが一覧にすることで自分だけでなく他者の動きも把握できたため、各々が適切に動けた。

実行委員は役務が多かったため、当日のタイムスケジュールはかなりタイトなものとなった。その結果、実行委員全員が常に担当を持っていたり、他の実行委員のヘルプをしていた為、全体を落ち着いて見られる人がいなかった。今後は参加者の力をもっと借りたプログラムを考案、展開すべきである。

当日タイムスケジュール計画と結果

日付	時刻	計画	結果
8/31	9:00	実行委員集合、準備	実行委員集合、準備
	11:30	金沢駅送迎	金沢駅送迎
	12:20		受付開始
	12:30	受付開始	
	13:00	開会式	
	13:10		開会式
	13:20	オリエンテーション	
	13:30		オリエンテーション
8/31	14:00	アイスブレイク	休憩
	14:20		アイスブレイク
	14:45		休憩
	15:00	技能大会	技能大会
	17:30	BBQ	
	18:00		BBQ
	19:30	交流会・入浴	後片付け、入浴
	20:00		交流会
	22:00	消灯	消灯
9/1	6:30	起床・清掃	起床・清掃
	7:30	朝食	朝食
	9:00	活動報告会	活動報告会
	11:30	閉会式	閉会式
	12:00	解散	解散

8/31(土)日	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00		
新田 夏和	実行委員会	昼食作り	昼食	車出し	開会式準備	開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	研修	夕食(BBQ)		
玉井 紗野	実行委員会	プログラム班会議	昼食	プログラム班会議	会費準備	開会式準備	開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	研修	夕食(BBQ)	
西山 あかり	実行委員会	昼食作り	昼食	片付け	受付準備	受付	開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	BBQ準備	夕食(BBQ)	
佐藤 優真	実行委員会	プログラム班会議	昼食	プログラム班会議	会費準備	開会式準備	開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	研修	夕食(BBQ)	交流会準備
渡辺 はるか	実行委員会	プログラム班会議	昼食	プログラム班会議			開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	片付け	夕食(BBQ)	交流会準備
山本 悠平	実行委員会	プログラム班会議	昼食	プログラム班会議			開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	片付け	夕食(BBQ)	
増田 いぶき	実行委員会	プログラム班会議	昼食		車出し	開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	片付け	夕食(BBQ)	交流会準備	
太田 莉鞠	実行委員会	昼食作り	昼食	片付け	受付準備	受付	開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	BBQ準備	夕食(BBQ)	
金子 空	実行委員会	昼食作り	昼食	片付け	受付準備	受付	開会式	オリエンテーション	アイスブレイク	スカウト技能大会	BBQ準備	夕食(BBQ)	
(参加者)	実行委員会	昼食作り	昼食	片付け		12:30受付	13:00開会式	13:20オリエンテーション	14:00アイスブレイク	14:45休憩	スカウト技能大会	17:30夕食(BBQ)	夕食(BBQ)

実行委員のタイムスケジュール (概要)

8/31(土)日			
6:30	起床		くつろぎ交流館
7:00	朝食・出発準備		#
8:00	移動	小矢部市立岩尾麓くつろぎ交流館→キゴ山ふれあい研修センター (必要であれば少し早めに出て買い出し)	
9:00	到着・受付	マーカー設置できたらする。藤高さんも到着	キゴ山
9:30	班ごとに準備	プログラム班: 開会式、スカウト技能大会、交流会の打ち合わせ・準備 総務班: 受付準備、備品確認・整理 参加者: お手伝い、(昼食準備)	玉井 プログラム 総務
10:45	参加者送迎出発・移動	制服に着替えて行く、昼食持っていく	前泊参加者
11:30	公共交通機関利用者集合	石川県連盟の指導者と落ち合う、出発時は連絡	新田・増田
	昼食	一旦実行委員全員集まる(新田・増田以外)、制服着替える	調理加工実習室
12:00	受付準備		研修集会室
		新田戻る	総務
	受付開始	名簿チェック、健康管理確認、参加費徴収、配布物、案内、館内飲食禁止 来た人から順に班で集まってもらい、班名を考える、名札書く	研修集会室
12:30			総務
	誘導(駐車場、入り口)		前泊参加者
	開会式準備	マイク・音響、必要であれば簡易タープの準備、司会読み合わせ、リハ	国旗ポール前
		増田戻る	プログラム・新田
		増田	増田
13:00	開会式	集隊: 山本 司会: 佐藤 歌: 渡辺 実行委員長挨拶: 新田 ※ローパー担当コマは見学のみ	国旗ポール前
		佐藤	佐藤
13:20	オリエンテーション	実行委員紹介 施設: 動画10分、説明 総務: 重要注意事項説明(喫煙、野外動物、水分補給、時間場所変更) 次の指示(着替え、場所、持ち物の案内)	研修集会室
		西山	西山
	アイスブレイク準備	施設の人からの説明終了後、体育館へ移動、準備(音響、備品、流れ)	体育館
	受付・支払い	施設へ前泊代の支払い	プログラム
	着替え・移動	制服の上を脱ぐ程度(荷物は研修集会室、施設)	事務所
		玉井	玉井
13:55			
14:00	アイスブレイク	14:00～説明・デモンストレーション 14:05～ゲーム開始(セット+2)	体育館
		渡辺・佐藤	渡辺(西山・金子)
		補助(西山・金子)	補助(西山・金子)
		休憩の前に水分補給について説明	渡辺
	スカウト技能大会準備	各部屋の準備(備品など)、打ち合わせ	体育館・研修集会室
		プログラム・新田	プログラム・新田
14:35		飲み物の準備	太田
		現座	西山
14:45	休憩	14:55～次のプログラムの案内、班で並ぶように指示。 15:00～注意事項説明(全体)B班を2つずつに分けて4箇所を順番に回る	体育館
		15:10～1ゲーム目(片手ロープ)	山本・増田
		15:30～2ゲーム目(コンパス)	体育館
		15:50～休憩・水分補給	新田
		16:00～3ゲーム目(測量)	体育館
		16:20～4ゲーム目(キムスゲーム)	佐藤
		16:40～昼飯作り(表で得点集計)	増田
		16:55～表彰 4ゲーム優勝班に表彰を送る。賞品は後で渡される。	研修集会室
		次の指示(移動、荷物、着替え、BBQ場所・時間案内)	体育館
		#	#
	BBQ準備	炭、備品、食材準備 雨天時: マーカー設置 中野さん送迎	調理加工室 あけぼの広場
		研修集会室から宿泊部屋に荷物の移動も行う	太田・西山・新田
17:10	着替え・移動	短いがつくので着替えても良いことと次の時間場所案内	体育館→研修集会室→ 宿泊部屋
		増田	増田
	夕食(BBQ)	実行委員は各班に入る	あけぼの広場
		技術大会景品代表者でじゃんけんして渡す	太田
	交流会準備	会場準備、飲み物・備品準備、流れ確認	増田
		和室集会室	佐藤・渡辺
19:00	片付け	各班参加者で片付けしてもらう、指示や全体の片付けは実行委員で行う。	太田
		19:30～20:00 A・B班	
		20:00～20:30 C・D班	
		20:30～21:00 E・F班	
		21:00～21:30 G・H班	
19:30	入浴・交流会		和室集会室
		担当者2名ずつ 他は順番に入浴	
21:30	実行委員入浴	(参加者も入浴できている人がいればここで入浴)	
	移動	交流会を締め、宿泊部屋に行くよう誘導	
	備品片付け・整理	明日の撤収も考え、できる範囲で片付けや整理を行っておく。	
22:00	消灯・見回り	宿泊部屋が騒がしくないか見回る、騒がしい場合は注意する	

実行委員のタイムスケジュール (詳細)

全体的な動きの把握や各人の動きの理解に役立った

6-8. ブロック・県代表との連携

実行委員会で決議された議事録はブロック代表との連名で愛知連盟から中部ブロック各県連盟に展開された。その際に各県代表に対して議事録がうまく共有されない事態が発生した。各県代表への情報共有を密に行うべきであった。

また、参加者の参加申込状況を県代表にも共有することで、自県の参加者の呼びかけにも役立てたのではないかと考える。

6-9. 安全救護

<事前準備>

担当（金子）の母親が看護師であったため専門職から助言を得られたこと、自身が看護専門学校で学ぶ学生であったため、助言や資料に事欠かなかったことが安全管理について、滞り無く作成でき、実行委員に周知できた最大の誘因であったと考える。また、セーフ・フロム・ハームについても自県連盟の役員からの助言で盛り込むことができた。しかし、施設側にアレルギーについて伝え忘れていたことは重大なインシデントであり、改善が求められる。また、喫煙については諸条件を勘案して場所についても策定するべきであったと思われる。また、用意した物品として、外傷、過換気症候群に対応できる物のみに限った。これは、看護師からの助言と薬を選ぶ知識が無くアレルギー反応に対して対処ができない事が予想されたためである。

<当日>

傷病者の報告は無かった。これは、外的要因に傷病を引き起こす要素が少なかったことが挙げられる。しかし、舎営での安全管理についてのノウハウは蓄積段階であり、今回の計画書をもとに、さらにブラッシュアップされることが求められる。また、風呂場で転倒するなどのインシデントが起こっていたため、責任についての線引きを決めることが最良と思われる。受付時の問診で既往歴のある参加者が小さい声で伝えてきたので、プライバシー保護は優先的に考慮すべき事象であった。

6-10. 会計

部分的な購入も含め、備品の購入を事前に行わなかったため、予算通りに備品を購入できるかどうかの把握がしづらく、調整ができるかどうか当日まで懸念が残った。実際に食材の購入について、5000円ほど予算を上回ってしまったので、できる限りの市場調査をし、予算通りに購入ができるように今後はさらに考慮すべきだと考える。特に食材についてはかなりの量、金額になるので事前に購入店との打ち合わせの中で金額も教えてもらうべき

だと思った。

<当日>

今回は参加費の徴収を当日の受付時に行ったため、実行委員内で立て替えが必要となり、会計担当の玉井が10万円ほど立て替えを行った。しかし、一人で立て替えをするには額が大きすぎるため、実行委員内で分担ができるように工夫すべきだと思う。今後はイベント期間も長く、また宿泊形態や宿泊場所、参加人数も変化し、さらに予算が大きくなる可能性が高い。その為、参加費1万円を超えたら、事前振り込みを検討すべきだと考える。また、イベント終了後、実行委員会が対面で行われない場合、会計作業を全て現地で完了させなければならない為、会計担当はある程度当日は会計作業をする時間を作るべきだと感じた。

6-11. 備品

<事前準備>

備品担当を明確に決めていなかった為、備品リストの作成が遅れてしまった。また各部会で必要なものを挙げ、誰が持参するのかを決めていたため、最終的に誰が何を持ってくるのかという全体のリストを作る必要性を感じた。

<当日>

備品担当を設けていなかった為、備品が全てどこにあるのかというのがきちんと把握している人がいなかった。当日の備品の管理が甘く、物品の紛失を起こしてしまった。最低限、貸し出し頂いたものは全てどこにあるのか、誰が使っているのかを担当は必ず、実行委員全体で意識をすべきだと思う。またその方法の一つとして、備品を入れる箱やスペースなどをきちんと決めて使用後は必ず戻すというように決めておけば紛失の可能性を低められたのではないかと思う。

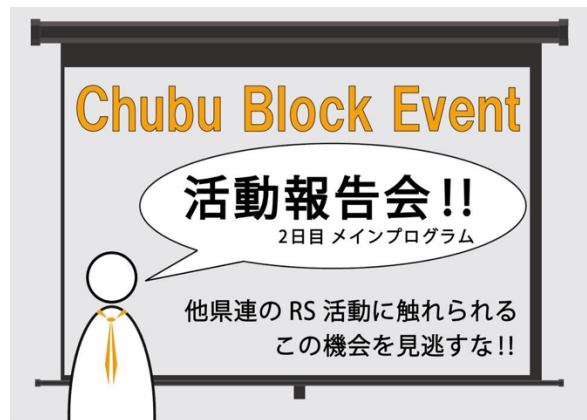
6-12. 広報

<事前準備>

広報活動において最も重要だったのは実行委員や、県代表からの呼びかけであった。また、広報期間が著しく短かったため、一同が広報活動に徹するという意識を持つことができた。この働きかけによって、実行委員のいる県連盟からは参加者を出すことができた。

Facebook 上での広報活動においては、全5種類の広告画像を実行委員が作成し、RCJ 中部ブロックの Facebook に投稿をしたところ、リーチ数、エンゲージメント数においても増加が顕著であったため、奏功したと言っても過言では無い。しかし、今回は初回であったこと

が大きな要因であるということも否定できない。また、広報の奏効率を上げるためにも9県から実行委員を出すのが最良であるとする。



ブロックイベントの広報活動のために
作成した広告画像（全5種）
短期間で集中的に投稿をしたことで広報の
成果が上がった

<当日>

Facebookにて実況形式をとったが、ノウハウと機材不足により難易度が上がった。しかし、リアルタイムで広報を行うことで、周知する事には一定の効果を認めることができた。

リアルタイムで行う場合にはカメラで撮ったものではなく、スマホのカメラで撮ったもので暫定的に投稿するのも一つの手段であると考えられるが、写真のクオリティーは投稿の閲覧数にも一定の相関があることも認められたため、無視ができない問題である。

広報運用のポイント

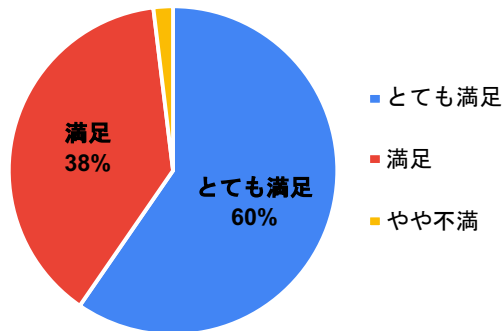
これからも Facebook を活用して広報をすると考えられるので、運用上のポイントを示す。しかし、この手法自体まだまだ発展途上であるため、各人でブラッシュアップしていくことが求められる。

Facebook は視聴回数を「エンゲージメント」「リーチ」であらわされる。「エンゲージメント」とは、いわゆるリピートしてくれている回数を示す。これが増えやすい投稿は、人の顔が載っているものである。「リーチ」とは、投稿の純粋な視聴回数を示す。これは、久しぶりに投稿する、企画物の一番最初等が増えやすい。逆に、企画物の最後の方は時間や、日にちを考えないと伸びにくい。また、画像付きはどちらも伸びやすく、フライヤーなどは適宜使うのが望ましい。

Facebook では、日時指定をして、投稿することができる。これを活用すれば、自分がオフライン状態であってもリモートで投稿することができるので、活用すると時間を別の作業に回せるため、効率化には必須の機能であると考えられる。

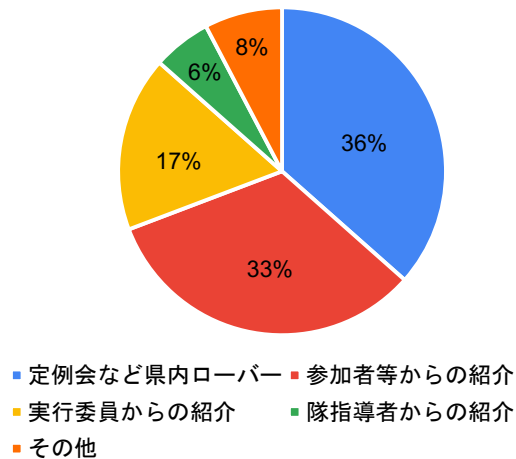
7. 参加者事後アンケート結果

【本イベントの満足度】



ほぼ全ての参加者が満足したという結果が得られ、初めての開催となった本事業は成功裏に終わったと言える。

【本事業を知ったきっかけ】



ほぼ全ての参加者が人づてに誘いを受けたとの回答だった。詳細に見ると、定例会などの県内ローバーの集まりにおける周知の割合が高く、県代表を通じた広報の効果が高かったと思われる。アンケートには直接は反映されていないが、バックグラウンドには SNS を用いた広報の効果もあったと考える。

【本事業に期待していたこと】

- ・他県のスカウトと知り合うこと
- ・ジャンボリー等で会った仲間と旧交を温めること
- ・他県のRSとの交流やどのような活動を行っていたか知ること
- ・同世代のスカウトがどのように隊運営をしているかの意見交換
- ・他県連盟のローバースの現状やローバーリングについて議論すること

【期待していたことの達成度とその理由】

- ・100%達成できた。今まで知らなかった他県連盟のスカウトたちの動きが知れた。
- ・様々な意見に触れることができた。今後の活動に生かしていきたい。
- ・各県の活動状況を知ることができたため、概ね達成できた
- ・班内や同じ部屋の人とは十分交流できたが、全体との交流は不十分だと感じた
- ・語り合う時間が少し足りなかった。

本事業に期待していたことを達成できたという意見も多い中、交流に関しては自分次第だったというような様々な意見がみられた。プログラム上、ほとんど班で動くことが多く、全体で交流する時間が少なかったことに対しては改善の必要がある。

【場所や参加費、実施日、実施期間は適切だったか】

○場所

- ・各県の位置から見て遠い、近いなどの意見はあった。
- ・富山、岐阜、愛知でやってほしい
- ・新幹線等交通の便はよかった
- ・ローバースが盛んでは無い地域で行ったので、その地域からも多くの参加者を呼べたので良かった

○参加費

- ・適切だった
- ・安すぎるくらいに感じた。1泊なら5,000円、2泊なら10,000円程度までなら出せる

○実施日

- ・適切だった
- ・夏休みなので参加できた
- ・もう少し早い時期にやりたかった

○実施期間

- ・適切だった
- ・石川まで集まって1泊2日は短いと感じた
- ・2泊3日がよかった
- ・1泊2日だと短く感じたが、観光も考慮するとちょうどよかった

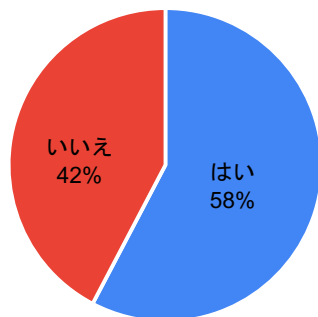
全体的に、開催場所・参加費・実施日および実施期間に大きな不満はなかった。

開催場所については全地区にとって移動に苦労しない場所を望む声もあったが、概ね適当だという意見が多かった。最寄駅が新幹線の止まる駅であることもよかったとの意見もあり、開催場所の交通の便が比較的良かったこともあるのかもしれない。

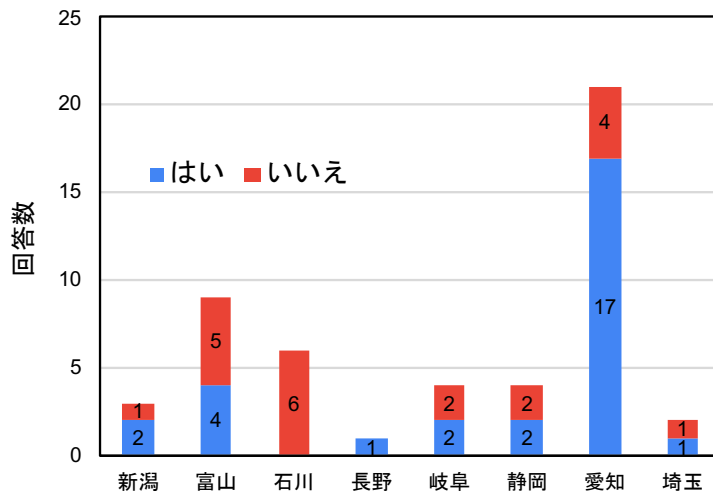
参加費については適切、もしくは非常に安いとの意見だった。本イベントで他県からの参加者が多かったことの理由の一つに参加費の安さがあると思われる。参加費が安く抑えられた最大の要因は借用施設の利用料金の低さにある。今後のイベントでは今回同様の参加費になるとは限らず、利用施設によっては参加費がより高くなる可能性があるが、参加費に見合ったプログラム内容を展開すべきである。

実施日に関してはほぼ全ての参加者から適切との回答が得られた。実施期間については1泊2日では交流が十分に達成されず、短いという意見もあり、2泊3日を望む意見が多かった。

【本イベントに参加する以前に RCJ 中部ブロックについて知っていたか】



全体の割合



県連盟別回答

RCJ 中部ブロックの存在については半数以上の参加者が事前に知っていた。参加者の県連盟別の見ると、愛知県以外はおよそ半数かそれ以上の参加者が RCJ 中部ブロックの存在について知っていなかったという回答結果となった。このような状況を鑑みると、ブロックとしての連帯感を高めるという目的で行われた本ブロックイベントは十分に必要性があったものと判断できる。

【2日間を通しての感想や意見】

- ・何回もやってどんどん参加者を増やして行って盛り上げて行ってほしい。
- ・知っている仲間と再会するだけでなく、新たな友達ができ良かった。
- ・楽しかったです。実行委員の皆様お疲れ様でした。
- ・ゲームや BBQ、交流会など短い間で色んなことが出来たし知ることも出来たのでとても有意義な時間でした。また参加したいです。
- ・自分のスカウト技能不足はもちろん、指導者として活動するスカウトや県でスカウトが集まって活動などいろいろな形でスカウトを知ることが出来た。このイベントに参加するまで辞めようかモヤモヤした気持ちがあった。しかしこのイベントに参加し、もう少し活動してみても、自分の中で納得するまで続けてみようかなと考えた。
- ・最近までローバースという活動について全く知らなかったもので、他の県での RS 活動について知ることが出来てとても貴重な経験となった。私の県ではこのような RS 活動がないので今後県内の RS 活動を活発化させていきたいと思った。

・普段なかなか交流出来ない他県のローバース年代の熱意や悩みを聞けてかなり有意義なイベントでした。自分は今もう参加できる年齢ではなくなるのですが、後輩のためにも定期的に開催していただくと助かります。

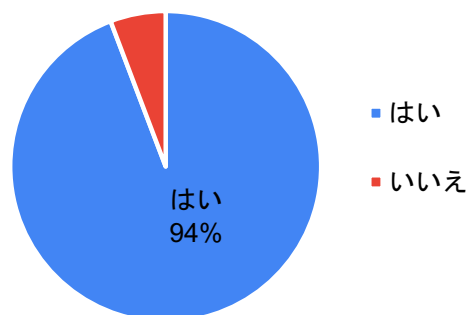
・実行委員の皆さんや県代表の活躍で60名というRCJのブロックイベントとしては最大級の人を集めることが出来ました。この皆さんが作ってくれたキッカケを引き継ぎ今後のRCJ中部ブロックをさらに活性化し、各県、各個人がより良いローバーリングを展開し個人としてさらに成長出来るにして行きたいと考えています。

・プログラムに関して、僕は日程表をみて今回のイベントのメインプログラムはスカウト技能大会だと勘違いしていました。しかし、よく考えてみると、本行事の目的がブロック内での活動の活性化や互いの理解を深めるということであれば、二日目に行われた活動報告会がメインプログラムであると気づきました。そうであれば、活動報告会を一日目のプログラムに置き、そこで得た疑問や意見を夜のBBQの時間などを活用し、個人レベルで交流するとより目的が達成できたのではないかと思います。

・少ない期間、人数で50人を超える参加者のイベントを開催した運営には感謝しか無いです。

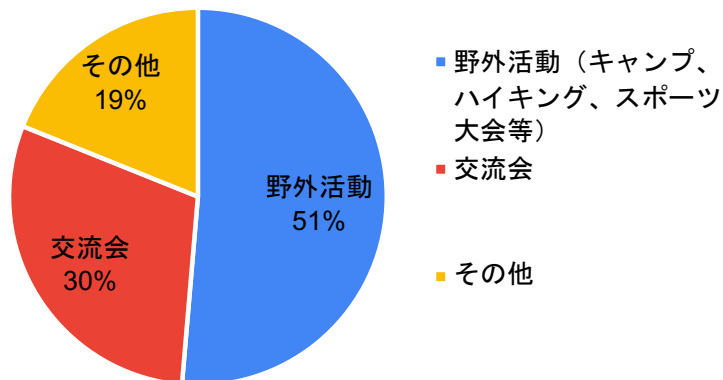
・毎年ないし、隔年でも良いので続けていければなと思った。

【今後ブロックイベントが開催されるなら参加したいか】



ほぼ全ての参加者が今後のブロックイベントに参加の意思があることが示された。ブロックで行うイベントに対し今後も開催のニーズがある。

【開催されるならどのようなことがしたいか】



○野外活動

- ・キャンプ (海や雪中)
- ・ハイキング
- ・ナイトハイク
- ・天体観測
- ・スポーツ大会
- ・開催地ならではの体験 (海や山、雪などを用いたプログラム)

○交流会

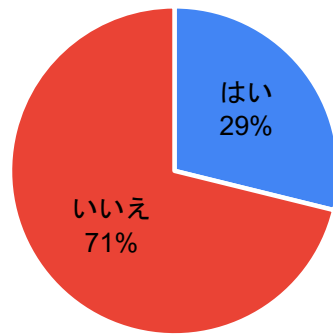
- ・フォーラム
- ・他県連盟ローバーのより詳細な活動報告
- ・世代間、地域間との交流
- ・指導者もしているローバーとの情報交換

○その他

- ・キャンプファイア
- ・料理
- ・RS について詳しく知りたい

キャンプ、ハイキング、スポーツ大会など野外活動や体を動かす活動のほか、開催地の立地を生かした活動へのニーズがあった。また、フォーラムや交流会といった他県 RS の交流や活動についての情報交換、指導者として奉仕している RS との情報交換がしたいという意見も寄せられた。全体の傾向としては野外活動のニーズが多かったが、情報交換・交流、親睦を深める等のニーズを望む意見も多く寄せられた。

【次回のブロックイベントが開催されるなら実行委員をやってみたいか】



約3割の参加者が実行委員をやりたいという回答が得られた。イベントに参加するだけでなく、自分たちで支えたいというニーズが示された。

8. 実行委員の感想

新田 寛和（石川）

石川県に住む前までは、福岡でRS活動をしていた。3年前に石川に移りこちらで活動をし始めて、地元との活動内容の違いに驚いた。また、県代表として他県の様々な取り組みや活動を知ることは、自身の活動意欲に対し大きな刺激となった。これまで中部ブロックでは地理的な問題から日本海側と太平洋側の交流が盛んではなかった。バラエティに富む中部ブロック各県連盟同士の交流は、参加スカウトにとって大きな刺激になったのではないだろうか。初の中部ブロックイベント、そして初の実行委員長としての運営を行う中で、私自身も大いに成長する糧を得た。反省点も多々あるが、バラエティに富む実行委員の助けにより2ヶ月という短い準備期間で達成できた。参加スカウトにとって、本イベントが自身の今後のローバーリングの糧になれば幸いである。本イベント開催に際しご協力いただいた関係者の方々に深く御礼を申し上げます。

玉井 鈴野（愛知）

今回、初めて中部ブロックイベントを開催でき、開催の検討を始めた二年前の県代表として大変嬉しく思う。中部ブロックは交通面等の問題で集まりづらく当初は参加者の呼び込みや運営を行う際の懸念が多く、開催までに時間を要したが、60人以上の参加者が集まった事や参加者の声から開催して良かったと思う事ができた。しかし、指導者の皆様からのご支援、参加者の暖かい気遣い等がなければ成功は難しかったと思う。イベントにご協力頂いた全ての方へ感謝申し上げます。そして当日まで一度も顔を合わせる事なく、前例もない中でイベントについて真剣に考え、互いに励まし合って多くの課題を乗り越え、運営をやり遂げた実行委員の皆様本当にありがとう。イベント後、参加者の多くがRCJの活動に積極的になった事やブロック内の交流や繋がりが生まれた事等嬉しい報告を聞くことができた。これからもこのイベントがきっかけとなってブロック全体が盛り上がっていく事を心より願う。

西山 あかり（静岡）

ローバースカウトになってから、今回初めて実行委員としてイベントに携わった。何もわからないまま総務班の長として副実行委員長になったため、各実行委員には多くの負担をかけてしまったが、今回のブロックイベントを通して自己の大きな成長につながっていると感じる。反省点は多々あるが、2ヶ月という短い準備期間の中でも本イベントを開催できたことにより、今後中部ブロック内で少しずつでも活動や交流が活発になり、ブロック内の

活性化につながっていけばと思う。

また初めてのブロックイベントだったこともあり、想定よりも多くのスカウトが参加した。1泊2日と短い時間ではあったものの交流をしていく中で、参加スカウト自身様々な刺激を受けることができたのではないかと思うとともに1人ひとりの今後につながっていけばと願う。

最後に、実行委員をはじめとし本イベントの開催に関わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。

佐藤 優真（愛知）

僕にとって、今回のイベントは初めて県外のスカウトと関わる機会でした。僕が入団したのはVSのときで、野営大会も県内のVS大会への参加経験しかありません。そのような中で今回の中部ブロックイベントに実行委員として参加させていただき、実行委員や指導者の皆様に支えられながら、数多くの素晴らしい経験と思い出を残すことができました。

僕はプログラム班のメンバーとして、主担当となった交流会や活動報告会だけでなく他の様々なプログラムにも関わらせていただきました。60人という予想を超えた大人数を対象とするプログラムの計画、それ以上に困難を極めた当日のプログラム運営、イベント後に寄せられた参加者からの声など、当日だけではなく準備からイベント後まで多くのものが得られ、今自分の中の引き出しは溢れるほどです。

最後になりますが、本イベントを一緒に作り上げた実行委員及び参加者の皆様、そして準備から当日まで多くのご支援をいただいた指導者の皆様に心より御礼申し上げます。

山本 悠平（富山）

県外のスカウトと活動する催しで実行委員として初めて参加しました。

全く知らない人たちとノウハウもない中、1から作り上げていくイベントにワクワクしていましたが現実はその甘くもなく、全員大変な思いをしてイベントを作り上げていきました。その中で何気なく参加していた様々なイベントの実行委員やスタッフの皆さんへ尊敬の念を抱きました。

そして迎えたイベント当日。もう終わったかのような晴れやかな気持ちで参加者の皆さんを迎えていました。しかし本当に大変だったのはここからでした。実行委員全員の想定外の事がたくさん起こり、経験値の浅かった私は実行委員や参加者にサポートされつつたくさんの経験値を得ることができました。皆さんを見送った後は何とも表し難い感情になりました。

今イベントで得たたくさんの経験を自団や、TRKの運営など様々な場面で生かして行きた

いと思います。

たくさん至らない点もあったと思いますが、今イベントに関わった全ての皆さんに感謝申し上げます。

波切 はるか（静岡）

今回の RCJ 中部ブロックイベントでは実行委員という役割を通してローバースカウトとしてはもちろん、ひとりの人間として成長できた気がする。担当したアイスブレイクに関して、何をやるかが全く自由で0の状態から、自分の提案した案が形あるものとして実現していく様子は本当に感慨深いものだった。終わった今でこそ達成感を感じられるが、企画の段階においては自分の無力さを感じた。実行委員の皆さんの助けあってこそ成功だったことを心に留めるとともに、今回感じたこと学んだことを次回の機会に生かしたい。また実行委員の皆さんから受けたよい刺激で今回のイベント期間に限らない、長期的な自己成長が期待できると感じている。ローバー活動に関しても理解、意欲が深まり自分の中でとても大きな意義を持つイベントとなった。実行委員の皆さんをはじめ、関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

増田 いぶき（静岡）

この中部ブロックの実行委員をしてみて多くのことを知れたと感じている。それは5つある。まず1つ目は、同い年でも県代表をしながら実行委員を行い、自分の意見をはっきり伝えられる人がいて自分より自立していること。2つ目は、ブロックイベントのプログラムを考える立場に立ってみて、企画を立てるのには多くの人が関与していて努力の上に成り立っていること。3つ目は、何かイベントするにあたって、食事、安全、障害者への配慮が必要で、自分のことではなく、他の人を最優先に考える必要があること。4つ目は予定通りプログラムを進行させようと思っても、アクシデントにより時間がずれることがあるので、素早く対応を考えて行動に移す必要があること。5つ目は、今回の中部ブロックイベントは参加人数が多く、参加者に話が通りづらいことがあったので、実行委員として大きな声でみんなに聞いてもらおうという姿勢で発言しなければならないということ。

最後にこのブロックイベント開催に携わっていただいた皆さんに感謝を申し上げたいと思います。

金子 空（長野）

事前準備では安全救護、当日は安全救護と広報を担当した。大きな事故が無かったのは、

実行委員各自のリスクマネジメントの賜物である。また、健康管理や安全管理での計画書作成段階において看護師である私の母からの助言はとても助けられた。また、SfHについても、県連盟役員からの助言がなければできなかつた。そして、このように計画を作ったことが、学校での勉学にも活かしている。

また、本イベントに実行委員として、参画したのはある実行委員からの誘いによるものであり、この誘いが無ければ私はローバー年代のスカウティングの醍醐味を知ることはなかつたと思う。誘ってくれた実行委員に最大限の感謝と敬意を。

太田 和輝（岐阜）

まず、自分はブロックイベントという大きなイベントの運営に携わったことがなく、右も左も分からなかつたため、実行委員の皆様には多大なる迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

今イベントは中部ブロック初のブロックイベントということもあり、多くの参加者が集まり、さまざまな活動報告があつたのは非常に良かったと思う。自分の県連盟のスカウトも活動の刺激になつたと話しており、非常に有意義なイベントにすることができた。

今イベントでは食事担当、主にBBQを担当させていただいた。時間に追われ、とても慌ただしいBBQになってしまったが、参加者からの楽しかつた、美味しかつたという声が聞けて頑張つてよかつたと思った。

動き始めがどんどん遅れ、開催まで2ヶ月を切つてようやく動き出した時はどうなるかと思つたが、実行委員長、副委員長の3人を中心に実行委員の尽力によって開催に漕ぎ着け、大成功におさめたというのは本当にすごいことだと思ふ。

最後に、今イベントの開催に関わつてくださった全ての方にお礼申し上げます。





RCJ 中部ブロックイベント 2019 実行委員会